

畑作・野菜・花き生産情報 第1号（要約版）

令和8年4月20日
青森県「農林水産力」強化本部

- ◎ 小麦の幼穂形成期は平年より早まっています。適期の追肥と病害虫防除で収量・品質を確保しよう！
- ◎ にんにくの生育は、既にりん片分化期に到達している地点があり、平年より早まっています。適期の追肥とさび病、春腐病の防除を徹底しよう！
- ◎ 施設内の温度変化が激しい時期です。適正な栽培管理により高品質な花きの生産に努めよう！

○ 小麦

- ・ 幼穂形成期は、消雪が早かった六戸町の「ネバリゴシ」は3月11日で平年より18日早かったが、つがる市、十和田市の「ネバリゴシ」は平年並から3日遅かった。黒石市の「キタカミコムギ」は平年より5日早く、つがる市の「キタカミコムギ」は1日遅かった。
- ・ 越冬前の生育量が多かったほ場は、越冬後の生育量も平年を上回った。越冬前の生育量が少なかったほ場は、地点により越冬後の生育量にばらつきが見られる。
- ・ 根雪期間は短く、例年より雪腐病の発生が少ない。
- ・ 本年は積雪の状況等により生育の差が大きいため、ほ場の状況を見極め、作業適期を逸さないよう留意する。
- ・ 2回目の追肥は、止葉抽出期から出穂期に生育量をみて適切に行う。

○ にんにく

- ・ 生育は、既にりん片分化期に到達している地点があり、平年より早まっている。
- ・ 追肥は、りん片分化期に到達したら適期に行う。
- ・ さび病、春腐病の防除を徹底するとともに、春腐病の被害株は抜き取って処分する。

○ ながいも

- ・ 春掘り作業は5日程度早い3月上旬から始まっている。芽が動くなどの品質低下を防ぐため、4月末までに作業を終える。
- ・ トレンチャー耕は、穴落ちなどを防ぐため適正速度を守る。
- ・ 栽培法に合わせて種いもを準備するとともに、早植栽培では4月下旬から5月中旬に植付けする。

○ だいこん、にんじん

- ・ は種作業は順調で、は種日は、だいこんでは平年より4日早い3月16日、にんじんでは平年より1日早い3月24日となった。
- ・ 好天時はポリトンネル内を換気し、適正な温度管理に努める。

○トマト、メロン

- ・苗の生育は順調である。
- ・定植に向けて徐々に気温を下げて苗を順化する。ただし、降霜が予想される時や低温時には、二重被覆等で保温に努める。
- ・土壌水分が好適な時期にマルチングを行うなど、ほ場準備を計画的に進める。

○夏秋ギク

- ・8月上旬出荷の作型は、平年並の4月中旬から定植作業が始まっている。定植後の生育は順調であり、病虫害の発生は見られない。
- ・親株のハウスは、日中の気温25℃以上にならないように換気する。
- ・移植栽培の場合は、挿し芽を定植2週間前に行う。

○トルコギキョウ

- ・8月上旬出荷の作型は、平年並の3月下旬から定植作業が始まっている。定植後の生育は順調であり、病虫害の発生は見られない。
- ・は種直後は発芽適温である20～25℃で管理し、発芽が揃った後は徐々に温度を下げ、15～20℃で管理する。
- ・老化苗は生育が劣るので、展開葉4枚までの苗を定植する。

※農なび青森 (<http://www.nounavi-aomori.jp/>) に本文を掲載しています。

◎『日本一健康な土づくり運動』展開中 ～元気な作物は健康な土が育みます～

◎環境にやさしい農業に取り組んで、みどり認定を受けましょう。

◎農薬は適正に使用しましょう。

◎食中毒を防ぐため、生産段階から「野菜の衛生管理」に努めましょう。

◎備えあれば、憂いなし！ 農業保険を活用しましょう！

◎春の農作業安全運動を展開中です（4月1日～5月31日）

◎ツキノワグマ出没注意報発令中！！（4月4日～11月30日）

報道機関用提供資料	
担当課 担当者	(畑作) 農産園芸課稲作・畑作振興グループ 総括主幹 鈴木晃 (野菜・花き) 農産園芸課野菜・花き振興グループ 総括主幹 木村一哉
電話番号	(畑作) 直通 017-734-9480 内線 5073 (野菜・花き) 直通 017-734-9481 内線 5076
報道監	農林水産部 次長 相馬宏伊 内線 4967